

令和 元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第2学年【国語】

1. 実態の分析

- 話すことでは、9割の児童が好きなこと等の内容とその理由が分かるように話すことができた。聞くことでは、単元末ワークテストにおいて大事なことを落とさないで聞くことの達成率は80%以上であったが、友達の話聞いて感想を述べることができる児童は6割程度に留まる。
- 読むことでは、物語文に比べ説明文に苦手意識をもつ傾向がある。話題について説明する文と補足説明する文を読み分けることが読解力を高める鍵となると推測される。
- 書くことでは、9割程度の児童が経験したことから題材を決め必要な事柄を集められる。また、簡単な構成も考えられるが、「考えを明確にする」という視点をもてる児童は6割程度である。
- 文字に関する事項について、カタカナの習得率は80%、漢字の習得率は70%程度であった。言語表記については、拗音、撥音などの表記や助詞を正しく使える児童は8割程度である。

2. 改善策

- 聞くことでは、「最後まで話を聞く」など聞く姿勢について指導をするとともに、聞いた内容についてクイズを出し合う活動を取り入れ、大事なことを落とさず聞く意識と聞く力を身に付けさせる。また、聞いた話の内容から相互に質問したり感想を伝えたりする活動を設定する。
 - 読むことでは、段落の並べ替えやセンテンスの並べ替えなど学習活動を工夫し、重要な語や文を選び出す力を身に付けさせる。また、よむよむタイムを活用し、説明的文章を積極的に選んで読み聞かせをする。本への興味・関心を高めたり、読書の幅を広げたり、語彙力を高めたりする。
 - 書くことについては、①事柄の順序に沿っているか②伝えたいことが伝わるかの視点で書いた文を読み返す習慣を身に付けさせる。間違いを正したり構成を見直したりする経験を積ませる。
 - 文字に関する事項については、全ての教科において繰り返し指導する。「漢字のひろば」などの小単元では、漢字だけでなく、句点の打ち方・「」の使い方などより明確に目標設定をして指導する。
- <改善策に対する検証>
- 学期末のテスト（聞くこと・書くこと・言語）で、正答率90%以上の児童を8割以上にする。
 - 経験したことなどを「始め・中・終わり」の構成を意識して書ける児童を9割以上にする。

第2学年【算数】

1. 実態の分析

- 「量と測定」の領域における長さやかさの単位についての理解は、単元末ワークテストにおいて約8割の児童が80%以上の達成率である。しかし、長さやかさの単位変換や定規を使って正確に直線を引くことが不確実な児童もいる。
- 「数と計算」の領域においては、2位数の加法・減法の計算の単元で9割以上の児童が90%の達成率、4位数までの表し方や数の大小の単元で約8割の児童が80%の達成率である。しかし、第1学年の学習内容である、「2位数-1位数」の繰り下がりのある筆算の習得が不確実で指を使って計算したり、計算に時間がかかりすぎたりしている児童も1割いる。
- 文章を読んで立式することは、題意を理解できずにただ数を組み合わせて立式してしまっている児童が1割いる。

2. 改善策

- ノート指導の充実を図る。
 - マスマスタタイム、計算ドリルや復習プリント等を繰り返し活用し、計算力の習熟を図る。
 - 算数少人数教員と連携し、個別指導の充実を図る。
 - 文章題については、題意を可視化させるために文章中の着目すべきキーワードに線を引かせる。また、それを繰り返し取り組み慣れさせていく。
 - 学習活動の中で、具体物を操作する活動やデジタル教材を取り入れ、理解を促すようにする。
- <改善策に対する検証>
- 東京ベーシックドリルにおいて全ての児童が正答率90%以上となるようにする。

令和 元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン